

練習通りの堅守が勝因

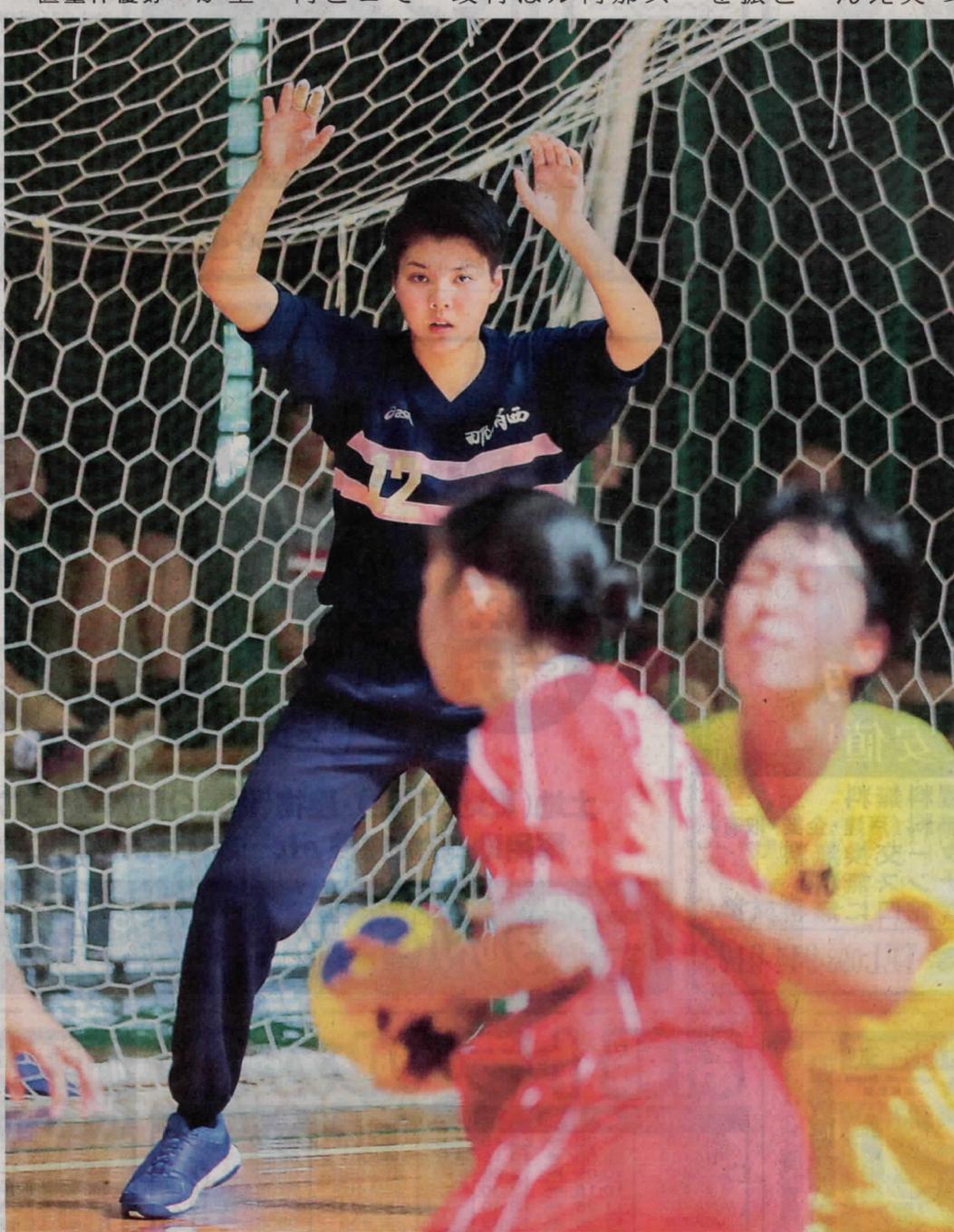
2018年度県高校新人体育大会は30日、県内各地で3競技を行つた。ハンドボールは女子決勝で那覇西が17-11で浦添を下し、4年ぶり13回目の優勝となつた。男子決勝では興南が36-25でコザに勝ち、3連覇を達成した。

女子決勝 那覇西-浦添 好

セーブを連発し4年ぶりの優勝に貢献した那覇西のGK仲宗根鈴珠(奥)。30日、八重瀬町の東風平体育館(大城直也撮影)

女子決勝 那覇西-浦添 好

セーブを連発し4年ぶりの優勝に貢献した那覇西のGK仲宗根鈴珠(奥)。30日、八重瀬町の東風平体育館(大城直也撮影)



堅守速攻で勝ち上がりつてきた女子の那覇西が、決勝でも堅い守りでロースコアの展開に持ち込み、17-11で浦添に

勝利し4年ぶりの頂点に立つた。決勝を含む4試合で36失点、1試合平均9失点に抑えられた。比嘉律監督は「取り組んできた守備でしっかりと守り、速攻で走る。シンプルなことをしただけです」と冷静に振り返り、「練習通りのプレーを勝因に挙げた」。

相手GKの好セーブやパスミスで得点が伸び悩む中、那覇西はGK・仲宗根鈴珠が何度も好セーブを見せ、ゴールを守つた。ディフェンス陣はゴールエリアラインに張り付くような横一戦守備で相手攻撃陣を切り込ませなかつた。

ショートコースを限定させて仲宗根が指先でショートコースを変えるなどしつかりと守り切り、一対一を止め、何度も速攻につなげた。

攻撃は喜納歩菜を中心とした地沢杏蘭、久場川かりんらが

ハイライト

得点を重ね、前半終盤の5連続得点で一気に差をつけ、それを防いだ。9月の県選手権で不調だったエースの喜納もチームが相手守備を崩し、もともと左肩の脱臼癖があつた仲宗根は6月に手術し、今大会が復帰戦だつた。相手攻守の中心選手の復調を感じられる大会となつた。

(屋嘉部長将)

ハンドボール	
興	南
36	1719
△同決勝	1510
コ	25
ザ	20
那覇西	32
△男子3位決定戦	1616
浦添	128
普天間	20
那覇西	17
△女子3位決定戦	1816
浦添	65
南風原	11
那覇西	17
△同決勝	710
浦添	74
浦添	11

那覇西(女子)、興南(男子)V

県高校新人体育大会

2018年度県高校新人体育大会は30日、県内各地で3競技を行つた。ハンドボールは女子決勝で那覇西が17-11で浦添を下し、4年ぶり13回目の優勝となつた。男子決勝では興南が36-25でコザに

勝利し、12年連続32回目の栄冠をつかみ取つた。ボクシングはライトフライ級の又吉昌向(KBC未来)と比嘉政太(宜野湾)が連覇。8階級中、バンタム級・富間連生、ライトウェルター級・屋嘉部竜聖、ウェルター級・玉村海藍、ミドル級・大城惟安マイケルと沖縄水産勢が4階級を制した。バレーボールでは女子の小畠が初優勝、男子は美里工業が5年ぶり17回目の頂点に立つた。

4年ぶり13回目の優勝を果たした
女子・那覇西の選手たち

12年連続32回目の頂点に輝いた男子・興南の選手たち

王者の圧倒的攻撃力 興南12連覇、全国に照準



男子決勝 興南-コザ 速い動きで守備を抜きシュートを決める興南の池間飛勇

○:男子の興南は決勝でコザに36-25で勝利し、12年連覇となつた。「全試合30得点以上を目標に掲げて、目標をはるかに上回る圧倒的な攻撃力を見せつけた。決勝は前半序盤に守備のマークミスから、リードさ

れる展開となつた。それで新里正遠から瑞慶山充貴へのスカイプレーで見せた。チームをまとめるエース

で主将の伊禮雅太は「勝つて1ムにしたい」と新たにチームにし、高校生活が楽しかったと言える最高のチ

ームづくりの先にある全国舞台に照準を定める。全国